

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2021/11/22号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

FRB理事のタカ派発言でゴールドに利食い売り

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



前週ゴールドは週前半に1876ドルを付け5ヶ月ぶりの高値を更新しました。インフレ進行への懸念がその原動力ですが、特に目立った経済指標の発表もなく週半ばから後半にかけては、利食いの動きと新たな買いの間での小動きに終始しました。その動きに売り圧力を与えたのが、金曜日のFRB関係者からの発言でした。まずウォーラー理事がその講演で、これまでよりも踏み込んだタカ派的発言をしたことです。現在のインフレ状況を「一時的なものではなく、考えていたものよりも長く続く」とし、「1インチ積もっただけの表面的な雪ではなく、大雪でしばらくは積もったままだ」とし、そのような状況下ではいち早く行動し、除雪をしなければならない」という比喻でテーパリングを加速し、金利上げの時期を早めなければならないことを示唆しました。この発言が引き金となりゴールドにはとてあえずの利食い売りが集中、金曜日の引けは1850ドルを割り込み、1845ドルで一週間を終えました。パウエル議長の再任の是非の決定をバイデン大統領が近日中に決めるであろうこと、7人のFRB理事の中の4人を任命する必要があることなどの不確定要素もとてあえずの利食いに繋がったものと思います。大方の見方はパウエル議長再任ですが、理事の中でのインサイダー取引疑惑などもあり、ブレイナード理事の任命の可能性もゼロではなく、サプライズもまだ完全には言い切れない状況であるからです。

次のFOMCは12月半ばであり、11月24日、つまり今週水曜日24時にはFRBが重視するインフレ指標であるPCE（個人消費支出）が発表になります。前回9月は過去数十年にわたっての最大の4.4%（前年比）となったインフレ率がどのようになるのか、マーケットを大きく動かす要因になりそうです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

ゴールドの需要と供給 (6) 投資需要

現在のゴールドのマーケットで価格を決めているのは、「投資家」です。昔は中国やインドといった「実需」の影響力が大きかったのですが、今は「投資家」影響力がはるかに大きく、特に「先物市場」での大手投資家の動きが、先物市場のレバレッジ効果（証拠金によるこの原理）も相まって短期的なマーケットの動きに多大な影響を与えています。需要全体における「投資」の割合を考えると、ゴールドはほかの貴金属とは違い、「そのもの」の形で使われる比率が高いメタルです。シルバー需要は半分が産業需要であり、PGM（プラチナやパラジウムの白金族）はほぼ9割が産業需要です。ゴールドのそれはわずか7%であり、残りは「そのものの形で保有する需要」つまり宝飾品と投資需要になります。宝飾品もインドや中国では、「投資」と考えることができ、ゴールドは圧倒的に「投資」のためのメタルです。同じ貴金属という括りの中でもこれはゴールドの大きな特徴だと言えます。その希少性ながら十分な流動性、そして何よりも5000年といわれる有史以来の人間との付き合いがゴールドの「投資」価値を形づくってきたのだと思われます。プラチナと人間の付き合いはせいぜい200年前後、そして流動性に大きな欠点、つまり希少性が高すぎるということ、シルバーは精錬という技術が発達するまでその獲得は難しかったこと（ゴールドのように「自然金」の形で手に入ることはほとんどなかった。PGMも同様）、そして精錬の技術が進歩したあとは逆に多く生産ができるようになったことで希少性が薄くなったことなどが、ゴールドがほかの貴金属と違った独自の「投資」用メタルとしての地位を確定したと言えます。その最も顕著な事例は、世界の中央銀行はゴールドを外貨準備の一部として大量に保有しますが、その他の貴金属をゴールドと同じように保有することはほぼありません。この投資用メタルの側面が、現在ゴールドの価格を希少性ではゴールドの20倍近くの価値があるはずのプラチナよりもはるかに高い価格に維持している最大唯一の理由です。投資家はゴールドを買うけれどもプラチナはそれほど買わないのです。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーム）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

